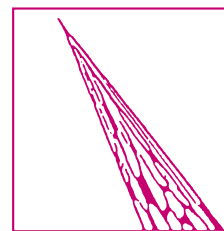


Liaison



(ホームページ <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp>)

Vol.35 Oct. 2010



Contents

特集：広島大学図書館ラーニング commons BIBLA

- ラーニング・commonsのこと / 図書館長 佐藤正樹 … 2
- ラーニング・commons BIBLAについて / 副図書館長 石井道悦 … 3
- ラーニング・commons 名称決定 / 図書館学術情報普及グループリーダー 江森早穂 … 6
- BIBLAが日経ニューオフィス賞特別賞を受賞 / 図書館学術情報普及グループリーダー 江森早穂 … 6

海外研修報告

- 苦難と至福のオーストラリア海外研修 ～フリンダース大学図書館研修報告記～ / 図書館学術情報普及グループ地域交流主担当 西本篤夫 … 7
- オーストラリアの大学図書館滞在記 / 図書館学術情報普及グループ 広島地区フロアサービス主担当 三見智子 … 9

研究開発室より

- 古地図のささやき / 研究開発室 助教 川和田晶子 … 11

図書館実績報告

- 第1期中期計画期間の主要な取組・成果と今後の課題 / 副図書館長 石井道悦 … 12
- 霞図書館改修 / 図書館学術情報普及グループ 広島地区フロアサービス主担当 藤井武志 … 16
- 平成21年度図書館利用者アンケート報告書 / 図書館学術情報企画グループ企画調整主担当 尾崎文代 … 17
- 講演会・研修会 等 / 図書館学術情報企画グループ企画調整主担当 尾崎文代 … 22
- 地域・国際交流プラザ企画展示報告 / 図書館学術情報普及グループ地域交流主担当 西本篤夫 … 23
- 平成21年度トピックス … 24

Hiroshima University Library

Liaison

vol.35
Oct.2010

ラーニング・コモنزのこと

図書館長 佐藤 正樹

先ごろ本学中央図書館にラーニング・コモنزが設けられ、浅原学長、岡本理事・副学長はじめおおぜいの方々に立ち会っていただき、お披露目式を行った。当然のことながら多額の予算を必要とし、浅原先生、岡本先生のご理解とご尽力がなければ実現にはいたらなかった。図書館を代表し、両先生と法人本部各位には心より御礼申し上げる。

とはいえ、ラーニング・コモنزがいかなるものなのか、図書館長になってはじめて知った次第。いや、実現してようやくその正体を知ったという体たらくである。そもそもこの英語の意味がわからない。図書館関係の会議に出席するたび、かならずといっていいほどどこかの大学でラーニング・コモنزを設置したというニュースを聞く。その意味を館員にも教えられ、他大学の様子を写真で見せてもらっても、なお合点がいかない。

ところが前館長の田中久男先生はすでに海外の複数の事例を視察され、その意義を認識されたと聞く。さらに当時、理事・副学長であられた二宮皓先生の絶大なお支援もあり、その実現に向けて精力的に指導されたようである。わたしにとってその先見の明は実に驚くべきものである。

結局よく理解できないので手もとの英和辞典を引くと、コモنزに「入会地」の訳語があててある。ああそうか、その配語法は sleeping car と同じだ。learning のための入会地だ。いや、これが正解なのか、英語にうといわたしにはよくわからない。それに learning というのが気に入らない。「学習すること」である。

もちろんそれはそれでいいのだという考えもあるだろうが、そもそもドイツ語にもフランス語にも英語にも、日本語の「学問」に相当する語が存在しないようだ。Wissenschaft といっても「学問」の「学」だけを意味し、「問」については語らない。周易には「君子學以聚之、問以辨之」とあり、さすがに中国人は学と問とを一对の概念として考えている。「学ぶ」の語源は「真似ぶ」であるから、これを聚めるとはすなわち、先人の知識をとにかく真似る、集めるという意味だ。辨ずるは区別する、理非曲直を明らかにし、取るべきものは取る、捨てるべきものは捨てるということであろう。わたしたちが漠然と理解している学問の意味にそっていえば、真似をする、すなわち先人の業績をひとまず集め、消化する、しかるのちそれらの是非を検討し、研究をさらに進め深める、ということになるだろうか。だから、理屈をいえば、学問のために分野を超えて学生や教師が集い、論議を戦わせる入会地、これがどうやらラーニング・コモنزというものらしい。

これは我流の理解にすぎないが、館員諸氏の文字どおりの奮闘が実り、とうとうできあがった。なんのことはない、書齋で辞書を引きながら悶々としているあいだにもう学生たちはここを利用し、しかもたいへん好評である。現在分詞がどうの、コモنزの原義は如何などと穿鑿しなくても、学生たちはお披露目の式を待たずしてすでにここを活用している。わたしは苦笑を禁じえない。

分野の別を超え、年齢も立場も超えて、この空間を活用する、ここでは会話も解禁される、いや、活きいきと言葉をかわしてほしい。必要とあらば、ここは図書館、膨大な書籍を手中に収めているようなものだ。難問にぶつかったときは相談できる。工夫すれば少人数の演習もできる。だれにももつことのできない巨大な書齋で意見をたたかわす、そんな風情だ。

この中央図書館は全国どこに出しても恥ずかしくない規模を誇り、館長として率直な感想をいえば、どこに出しても恥ずかしくない熱意にあふれた有能な館員がそろっている。このラーニング・コモنزを披露するにあたっては、その前夜まで館員たちが額に汗して準備をととのえた。この色あいはすてきだ、このソファの感じはなかなかいい、こんな細かいところにも配慮が行き届いている——利用者がそんなふうに思ってくださったとしたら、それはすべて本学図書館員の手柄である。

わたしのつぎの希望は霞図書館をもう少し利用しやすいものにすることだ。そもそも霞地区の規模にみあう大きさではないのはまことに遺憾である。できることならこの貧弱さを解消したい。が、やはり巨額の資金を必要とする。ならば、せめてその内部だけでも快適なものにしたい。霞キャンパスには多彩な分野の人たちが集っている。だからそういう多彩な人たちが、ときには隣り合わせになって語り合う空間がほしい。キャンパスが離ればなれになっていることから生ずる不利益は少しでも少ないほうがいいにきまっている。中央図書館の充実と霞図書館の充実は、まったく同じにはならないにしても、もう少しなんとかならないものかと心を痛めている。霞地区の利用者各位には、館長としてひとまずお詫びするほかはない。

中央図書館ラーニング・コモンズ<BIBLA>について

副図書館長 石井 道悦

平成22年4月、中央図書館ラーニング・コモンズがオープンした。8月には、学内公募による愛称を「BIBLA(ビブラ)」と決めた。9月には、情報メディア教育研究センターのICE端末の更新・増設も完了し、10月の新学期には一連の整備が完了する予定である。本稿では、広島大学図書館におけるラーニング・コモンズの構想、位置づけ、検討経過、及び今後の課題を述べる。

ラーニング・コモンズ<Learning Commons>とは

1990年代後半から欧米の大学で急速に一般化した図書館の新しい学習スペースの呼称。当初はインターネット上の情報資源の利活用に重点があり「インフォメーション・コモンズ(IC)」と呼ばれることが多かったが、次第にグループの学習・作業を前提とした<共同で学ぶ場>として「ラーニング・コモンズ」と呼ばれるようになった。<Commons>とは、「共有資源」、「公共の場」を意味する言葉であり、インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへの流れは、大学の学習が『知識の伝達』から『知識の創出・自主的学習』に移行したことの反映であるといわれる。

具体的には、大学図書館の伝統的な静粛・個人学習中心の閲覧室とは異なる、情報資源の利活用とグループでの学習や作業を前提とした会話や議論を許容する空間である。一般的に以下の3要素より構成される。

- SPACE** 広いテーブル、グループ作業スペース
コンピュータ・ネットワーク環境
- STOCK** 電子ジャーナル、DBなどの情報資源
レファレンス資料等の印刷資料など
- STAFF** レファレンス・サービス
IT技術支援サービスなど

また、プレゼンテーションの環境、スタジオ、ラウンジ、カフェなどの併設や論文作成指導などの多彩な人的支援サービスを展開するケースも多い。

海外図書館の視察と「次世代図書館の夢を語る」

平成19年度、広島大学図書館は「次世代図書館は如何なるものであるべきか」という課題を設定し、平成22年度からの第二期中期計画期間の目標設定・計画策定の準備作業を開始した。幸い、当時の学術担当の二宮理事・副学長の全面的な支援を得てアメリカ・オーストラリアの図書館視察が実現し、職員が学術図書館に共通するグローバルな諸課題とその解決に向けたそれぞれの取組を体感することができた。

- 1) 学習・教育と密着・連携したサービス展開
- 2) ネット利用、共同学習のためのスペース展開
- 3) 電子資料の整備、財源の確保
- 4) 図書館コンソーシアムの活動と協力関係
- 5) Web2.0世代のITC技術の活用
- 6) 資料保存と電子化による活用
- 7) 図書館職員の能力開発と学生スタッフの活用

これらの成果は、「米国・豪州の大学図書館視察報告書ー次世代図書館サービス調査を中心としてー」(平成20年1月)にまとめるとともに、3月には、学内教員・学生向けに海外図書館視察報告会「次世代図書館の夢を語る」を開催した。

この報告会では、特に1)学習・教育と密着・連携したサービス展開 2)ネット利用、共同学習のためのスペース展開の具体として「ラーニング・コモンズ」の開設を緊急課題とした。その趣旨は次のとおりである。



図1)「次世代図書館の夢を語る」ポスター

図書館は、研究のためのデジタルコンテンツの導入提供(非来館型サービス)を優先させてきたが、それに比べて学習サービス対応は遅れている。学習支援は大学図書館の基本的使命の一つであり、現在の学生の学習スタイルにあった学習空間を提供すべきである。現在、図書館の学習環境は、専ら古典的な静粛を旨とする個人学習向けとなっている。図書館は、生協食堂や近隣スーパーマーケットのフードコートで仲間同士で学習する学生たちを排除しているのではないか。ネット世代学生の情報ニーズに合致した多様な情報源が身近に使用できる空間、大学の授業や課題の変化に応えたグループ学習やプレゼン演習が展開できる空間が必要である。これらの、多様で個別の学習ニーズに対応した人的支援サービスを展開する空間として、「ラーニング・コモンズ」の開設が求められる。

また、平成19年度には、情報メディア教育研究センターの次期教育用端末(ICE端末)の更新計画が検討され、東広島地区北側の端末不足を中央図書館に配置する端末を増強することにより解消する方針が決定した。

ラーニング・コモンズ構想の具体化

平成20年度、図書館では第二期中期計画期間の目標設定・計画の策定作業と平行して「ラーニング・コモンズ」構想の具体化に取りかかった。

まず、第二期中期計画期間の目標・計画の基本とする考え方を(次世代図書館の方向性)として、3点を掲げた。

- 1) 利用者の視点に立った図書館サービスを展開する。
- 2) 留学生・外国人研究者にも活用される国際水準の図書館サービスを目指す。
- 3) 全館的にハイブリッド・ライブラリの構築を進めるとともに、サービス拠点、学習・交流の場として現5館体制を維持する。

- H20/11 オーストラリアFlinders大学【INU加盟】に職員派遣、ラーニング・コモンズの運用調査
- H21/2 東京大学現代GPシンポジウム2009「アクティブラーニングのための学習空間を創る」に職員参加
- H21/4-10 アクセシビリティセンター、グループ学習室利用の教員・学生に聞き取り調査
- H21/9 「次世代図書館サービス構想」WG報告
- H21/9 予算措置（平成21年度学内戦略的活用財源）
- H21/9-12 他大学の見学
広島修道大学・広島工業大学・大手前大学・大阪大学・名古屋大学・九州大学・ICU
- H21/9-12 家具メーカー見学
レイアウト検討、家具什器類の選定作業
- H21/11-H22/2 施設工事 電気工事 無線LAN増強
- H22/3 移転作業・OA床施工・什器設置
ICE端末設置最終打合せ
- H22/4 利用開始、学内披露式
- H22/8 グループ学習室防音工事
- H22/8 ICE端末設置・調整
- H22/9 ICE端末利用開始（予定）

今後の課題など

平成22年4月にオープンした中央図書館ラーニング・コモンズは、連日学生たちの利用で賑わっている。中央図書館の入館者数は、4月以降前年比15%増で推移しており、夏休み明けには、さらにICE端末増設による効果も期待できる。

設計段階で最も懸念した、既設スペースとのゾーニングも特に問題なく定着した。1階はラーニング・コモンズ、2階3階は従来型の静粛閲覧席、Aゾーン（グループ・スペース）の会話に対する苦情もなく、利用者は賢く使い分けをしている。

8月には、2階・3階のグループ学習室（各1室）の防音機能を高める工事を実施する。予め、場所を確保したいゼミ等の予約に対処するものである。また、ICE端末の利用にあ

わせて、情報メディア教育研究センターからの要員配置も決定した。

このように非常に順調なスタートとなったラーニング・コモンズであるが、以下、今後の課題を記す。

1) 霞図書館における整備

今回、中央図書館の整備と同時に、東図書館にはミニ・ラーニング・コモンズ（20席 端末15台）を設置した。従来から、情報メディア教育研究センターがオープン端末を大規模に配置している西図書館と合わせて、東広島地区の図書館パソコン利用環境は一応の整備を見た。この夏、霞図書館にもICE端末は15台新設されるが、施設上の制約から当面は単なる端末室となる。霞図書館は、昨年度、待望の閲覧室の拡張・改修を行ない、学習図書館としての整備に着手した。続いて、第二次改修を行い霞ラーニングコモンズの整備が急がれる。

2) ラーニング・コモンズの成果

ラーニング・コモンズの究極の目的は、その利用を多様な資料の使いこなし支援に結びつけ、学生の情報リテラシー能力の向上という成果に如何につながることができるかにある。次世代図書館サービス構想として図4に記した多彩なサービスをどのような工夫により展開できるか、実のある教育連携と図書館の企画力が問われるところである。

参考資料

- 1) 米澤誠. インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援. カレントアウェアネス. 2006, no. 289, <http://current.ndl.go.jp/cal603>.
- 2) 今後の「大学像」の在り方に関する調査研究（図書館）報告書：教育と情報の基盤としての図書館. 筑波大学, 2007
- 3) 永田治樹, 大学図書館における新しい「場」：インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズ, 名古屋大学附属図書館研究年報. 2008, (7), p.3～14

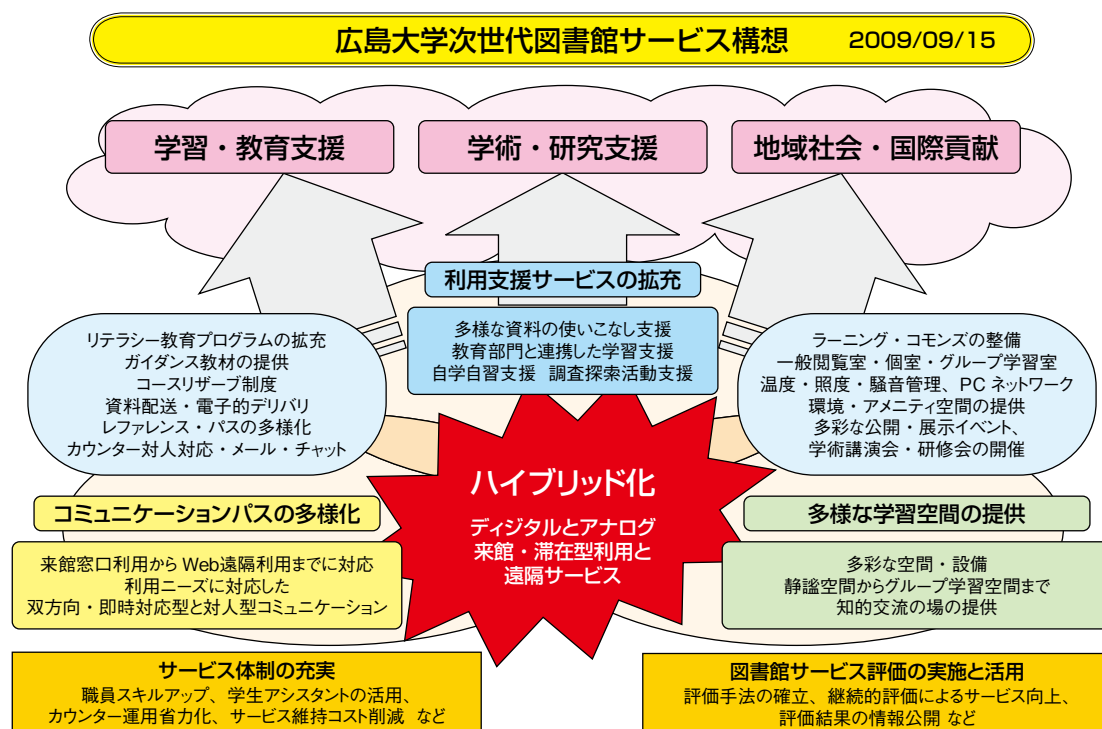


図4) 広島大学図書館 次世代図書館サービス構想図（「次世代図書館サービス構想」WG報告より）

ラーニング・コモンズ（仮称）の名前が “BIBLA”（ビブラ）に決まりました

図書学術情報普及グループリーダー 江森 早穂

4月にオープンして以来、かなりの学生・教職員の方に利用されてきたラーニング・コモンズ（仮称）のコーナーですが、このたび正式に名前がつきました。

皆さんに気軽に「〇〇へ行こう」と言ってもらえるような名前にしたいということで、5月27日から7月20日までホームページ等でお知らせし、名前を募集しました。期間中に合計35点の応募があり、一次審査で数点に絞り、さらに図書館内で検討を重ねた結果、BIBLA（ビブラ）と決定しました。これはドイツ語の図書館広場 Bibliothek Platz をつめて愛称化したもので、多くの方に集まって頂き、自由に交流して頂きたいという希望をこめたものです。

名前と同時に、ロゴも決定しました。図書館の前の広場は春にはクローバーに覆われること、グループスペースの可動式の机が上から見ると三つ葉のクローバーに似ていること、中央図書館BIBLAが三つの性格の異なったゾーンからできていることなどから、三つ葉のクローバーをBIBLAのシンボルとし、皆さんに親しんで頂けるようにして行きたいと思っています。

なお最終審査に残った3点の応募者及びクローバーのロゴのアイデアを下された方には図書カードを、そして応募者全員に図書館グッズを記念に差し上げております。



中央図書館BIBLAが 日経ニューオフィス賞特別賞を受賞しました

図書学術情報普及グループリーダー 江森 早穂

「ニューオフィス」作りの普及・促進を図ることを目的とし、創意と工夫にあふれ、快適かつ機能的なオフィス、また感性を刺激し創造性を高めるオフィスとして優れ、現在使用されている国内のオフィスを規模・業種を問わずに表彰する「日経ニューオフィス賞」は、今年で23回目となることです。広島大学ラーニング・コモンズ（仮称）は、この春、仮称のまま、この賞に応募しました。

その後、コンセプトを説明した書類の提出、審査員の現地視察などを経て、このたび日経ニューオフィス賞中国ニューオフィス特別賞「知的交流施設賞」を受賞することが決まりました。授賞式は10月8日の予定です。

学生、教員への聞き取り調査を経て、各ゾーンに利用者のニーズにあった機能を持たせた新空間を「知的交流の場」として位置づけてゆきたいという広島大学図書館の意図が「新知的交流施設賞」受賞という形で広く認められる結果となり、こんな喜ばしいことはありません。今後とも皆さんに快適に利用してもらうことができ、そして益々知的刺激に満ちた交流の場であるよう、図書館員全員で心がけていきたいと思っています。

苦難と至福のオーストラリア海外研修 ～フリンダース大学図書館研修報告記～

図書館学情報普及グループ 地域交流主担当 西本 篤夫

INU Shadowing Program

日本では、立命館大学と広島大学が参加している国際的
大学間コンソーシアムINU（International Network of
Universities）の管理職・シニア職員向け研修、シャドウイ
ングプログラムに挑戦してみないかと当グループリーダー
から打診があった時は、「1人で海外旅行に行った経験もない
私が、通訳もない海外の大学で2週間研修するなんてあり得
ない。」と思い、非常に混乱した。

最終的に、以下の理由が決め手になって私は研修に参加
することを決断した。

- ・前年度に当館の高橋さんがフリンダース大学に行った
ので、手続きなどを教えてもらえば何とかなる気がする。
- ・辛い研修まで9ヶ月間あるので、受験勉強のつもりで
英会話を必死で勉強すれば何とかなる気がする。
- ・私が通訳がない2週間の海外研修に参加できるのは、年齢・
気力・体力から考えても今回がラストチャンスだと思う。

私が今回の研修プログラムで特に興味があったのは以下の業務だった。

- ・フリンダース大学図書館の展示業務と広報活動
- ・アデレード大学図書館とState Libraryの「図書館友の会」



緑と美しい施設が多いアデレード市内

研修の準備

研修に行く前の準備段階でも貴重な経験ができた。20回に及ぶフリンダース大学の各担当者との英文メールのやりとり、足掛け3ヶ月の歳月を費やした英文のプレゼンテーションの作成、毎朝のノルマとなった英会話学習（CD）など、研修に行く前から、少々疲れるが刺激的な生活を送ることになった。しかし、この万全の準備のおかげで、2月8日から19日までのアデレードのフリンダース大学への研修に、不安と期待五分五分の状態の旅立つことができた。

印象に残った研修プログラム

- ・フリンダース大学図書館のFridays Library

展示会場で展示会と同時に講演会やコンサートが行われ、地域の人や学生は展示会場で飲食しながら講演などを聴く。これは日本の大学図書館とコンセプトが違うので、とても刺激を受けた。

- ・フリンダース大学図書館の広報活動

フリンダース大学は、アデレード市内のFlinders City Galleryでの展示会、Flinders City premisesでの広報活動、公共図書館での地域交流のためのプレゼンテーションなど、大学外での広報活動に多くのお金を費やして力を入れている。

- ・アデレード大学、State Libraryの「図書館友の会」

寄附金の半分以上を「図書館友の会」の一番大きな収入である本販売の出版費用として使っている。また、寄付した人の特典は、図書館内の目立つ場所に彼らの名前や写真が掲示されることである。

- ・「広島大学図書館の地域連携」のプレゼンテーション

フリンダース大学図書館職員は広島大学図書館の地域連携に高い関心を示し、20件位の質問があった。熱心に議論

し意見交換を行い、とても意義のあるプレゼンテーションだった。

・図書館長との懇談会（最終日）

研修の前半は、会議の席では質問されるまでひたすら黙っていた私だったが、最終日の懇談会では、大学図書館の地域サービスについて別人のように熱く語り積極的な意見交換ができた。怪しい文法で積極的にしゃべる私の英語について、館長から「Your English is challenging and impressive !」と言われ、「英語はスマートでなくても、とにかく通じれば良いのだ。」という不思議な度胸がついた。

研修の成果

英語が苦手な私は研修に行く前の不安が大きかった。日本語なら5分で書ける単純なメール作成に1時間かかり、日常業務で超多忙な時に先方から来た2ページに渡る長文メールの意味がよく分からないのでいらいらした時もあった。英文のプレゼンテーションの作成、英会話学習、旅行の準備、純和風のおみやげ（総重量7キロの漆器：スーツケースに入れるのをあきらめて事前に送付した。）の準備なども想像以上に大変だった。研修に行く前にエネルギーを使い果たしそうなので、無事に研修に行けるのかと、同僚や家族に心配された時期もあった。以上のように研修の準備については正直言って苦難の道のりだった。

しかし、実際にオーストラリアに着いてからは意外なほど順調だった。フリンダース大学図書館の職員は親切でとても快適な研修環境だった。会議や施設訪問で外部の人から理解不能なハイスピードで説明や質問をされた時は、私の世話役のオマリー氏などに分かりやすい英語で通訳してもらい、何とかその場を乗り切った事も多かった。このように、研修中は、緊張感のある刺激に満ちた至福の時間を過ごすことができた。

研修が順調だったのは、フリンダース大学図書館の職員のサポートのおかげである。また、研修参加前に、英語が堪能で海外研修に慣れている図書館の同僚から教えてもらった「海外研修は『度胸』と『笑顔』があればなんとかなる。」というアドバイスを素直に実践したことも良かったと思う。

具体的な成果は以下の通りである。

- ・研修中の日常会話や議論によって異文化交流を十分楽しむことができた。これが一番の成果だった。
- ・研修中に2週間英語だけの生活をしたので、英会話について根拠のない不思議な度胸がついた。
- また、この研修が「英会話学習を一生（？）続けよう。」と決心した大きなきっかけになった。
- ・私にとって一番大きな負担だった英文のプレゼンテーションはとても貴重な経験だった。
- ・海外研修によって視野が広がり、国際性が高まった。
- ・今回の海外研修の貴重な経験を展示、広報、フレンドリー利用などの仕事に活用したい。
- ・海外研修報告会などの開催、英文の研修報告書（INU提出用）の作成、図書館報などへの記事執筆

謝辞

最後に、この研修参加のために腐心してくださったINU事務局、本学国際センター国際交流グループ、当館、フリンダース大学事務局、フリンダース大学図書館スタッフ、協力していただいたすべての方へこの場を借りてお礼申し上げます。



研修中お世話になった Special Collections のスタッフとの会議



メンターの Aliese Millington 氏、Gillian Dooley 氏と西本

オーストラリアの大学図書館滞在記

図書学術情報普及グループ 広島地区フロアサービス主担当 三見 智子

図書館振興財団および広島大学後援会より助成金をいただき、オーストラリアの大学図書館にて約2ヶ月の現地研修を受けてきました。ここにその報告をさせていただきます。

期 間 2009年10月31日～2009年12月25日

研修先 フリンダース大学図書館（オーストラリア・アデレード）

訪問先 アデレード大学図書館、南オーストラリア大学図書館、アデレード神学学校図書館、病院図書館、アデレード市内公共図書館

フリンダース大学と広島大学

両大学間には似通った点がいくつかある。

1. 両者とも総合大学であり、学生数がほぼ同じである。（フリンダース16,619人（2008年現在、うち留学生3,131人）、広島大学15,816人（2009年現在、うち留学生978人））
2. 大学図書館の設置形態が似通っている。（フリンダース4図書館より構成、広島大学5図書館より構成）
3. 大学ランキング（2009年）が近い。（フリンダース254位、広島大学259位）

以上3点に加え両大学ともINU（国際大学ネットワーク）に加盟しており、既に大学間の交流が行なわれている。2008年8月から10月までの約3ヶ月間、フリンダース大学図書館からChris O'Malley氏が来日し、当館にて研修を行なっている。



フリンダース大学図書館長の
Ian McBain氏と三見

研修内容および報告

今回の研修は図書館サービスの現場を直接見せていただくことを主目的としたものである。研修の中で特に特徴的なものについてここに報告いたします。

・大学院実習生司書プログラム（Graduate Trainee Librarian Program）

1994年から始まったこのプログラムはフリンダース大学図書館独自のものである。このプログラムによる採用試験は面接により行われるが、図書館における勤務経験は考慮されない。フリンダース大学図書館採用後の実習期間は3年間で、その間2～3箇所の部署で経験を積む。実習生は複数の部署を経験することで図書館の全体像を理解することが出来るようになる。実習生とはいえ給料は支払われ、3年後にはそれ以上の給料とポジションが約束されていることが募集要項に明記されている。このプログラムによる図書館側の利点として、質の高い図書館員を雇用できることがあげられる。これは図書館における勤務経験を問わないことにより、誰でも図書館員になるチャンスをつかむことが出来ることによる。また、現図書館員が実習生から刺激を受けることも考えられる。オーストラリアの図書館員は長年勤務する人が多く、それゆえ固定観念にとらわれがちである。固定観念のない実習生によるアイデアは図書館側からも歓迎されるべきものがあると思われる。ただしいくつかの問題点も存在する。図書館の業務全てが実習生に向いているとは限らず、短期間では習得が困難な業務も存在する。また、経験がない実習生の面倒を見る指導者が必要なため、指導者の仕事量増加による負担が発生する。

図書館には様々な業務が存在する。このプログラムは様々な業務を図書館経験が少ないうちから経験させることにより他部署との関わりを学ぶよい機会であるといえる。それにより視野の広い図書館員が育成できると考えられる。

・大量の留学生受け入れに伴うニーズの把握と対応

先にフリンダース大学と広島大学の学生数はほぼ同数と述べたが、留学生比率はフリンダース大学が全学生の約20%に対し、広島大学は10%にも満たない。図書館における留学生対応はどのようなものか、調査を行なった。

フリンダース大学図書館ではカウンター対応はすべて英語で行われており、サイン表示等で多言語対応したものは見当たらなかった。英語を共通語として使用しているが、例えば話し手の英語が堪能でなくても真剣に聞くという姿勢は全職員間で共通していた。また、大学が留学生に関する講習会（出身国、宗教、文化等について学ぶ）を定期的に行っていた。留学生に対する知識を習得することは多くの留学生を受け入れるフリンダース大学の全職員にとって不可欠であるようだ。

留学生の抱える問題として、フリンダース大学では初年度に単位を落とす留学生が多いとのことであった。それは大学に入学するまでの勉強のプロセスがオーストラリアと違うからではないかと推測される。図書館として留学生が単位を落とすことがないよう、きめ細かいサポートを行う必要性を感じている、とのことであった。

・専門担当司書 (liaison librarians) 制度



リエゾンライブラリアンの方達と
三見 (中央下)

フリンダース大学図書館には11名のリエゾン・ライブラリアンがいる。彼らはサブジェクト・ライブラリアンとしての仕事も行っている。リエゾン業務として部局との連携のもと、図書の選定・データベース購入の検討等を行う。サブジェクト業務としてレファレンス、利用指導（ガイダンス・講習会等）を行う。常に利用者と接する業務であり、利用者とは一番話す機会がある図書館員と言える。いつもフレンドリーに接する彼らのオフィスにはしきりに利用者が相談にやってくる。業務を迅速かつ確に行うことがサービスを行う上で大切であること、そのことにより利用者からの信頼を得ていること。これらのことを彼らの仕事の様子からうかがい知ることが出来た。

・他大学図書館との連携

アデレードには3つの大きな大学がある。アデレード大学、南オーストラリア大学、フリンダース大学である。この3大学に属する学生は学生証があればどの大学からも直接図書を借りることが出来る。これらの大学では同じメーカーの閲覧システムを使用しており、利用者データを共有しているとのことであった。

フリンダース大学構内にURRSA (Universities' Research Repository South Australia) という施設がある。これは上記3大学図書館の書庫であり、管理・サービス提供はフリンダース大学図書館が行っている。複数大学の蔵書を1箇所に納めた大変興味深い施設である。



URRSAの内部



URRSAの外観

・フリンダース大学のライブラリアン

オーストラリアでは日本と同様コミュニケーション手段としてメールは欠かせないものであるが、大事なミーティングは必ずといっていいほど直接会って話す機会を設けている。また、研修会等勉強する機会があれば毎回多くの職員が参加し、多くのことを知ろうとする貪欲さが見て取れた。



こちらは本1冊がツリーに变身

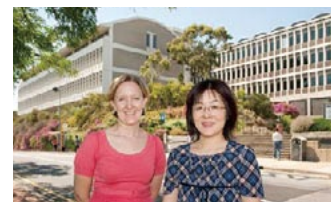
フリンダース大学図書館では数年おきに担当の異動があるとのことである。異動があるとは思えないほど現在の担当業務に精通しており大変驚かされた。みな図書館の仕事に誇りを持ち、楽しんで仕事をしているように見受けられた。

12月に入るとアデレード市内はクリスマス一色となる。図書館も例外ではなく、館内の飾りつけを行なう。その飾りつけは職員が色々な所からアイデアを得たものである。情報を取り入れ、現場に反映させる能力の一旦を垣間見た気がした。



大量の本を積み重ねて
出来たクリスマスツリー

今回の研修はメンターの方の要望と私のリクエストを取り混ぜ1週間毎に組んで行なった。日替わりで様々な部署へ伺い、実際業務を行っているところを見せていただく機会を得たことは大変貴重であり、刺激的であった。滞在当初連日40度になる日が続き、慣れない環境の中体調を崩す日もあった。そんな中フリンダース大学図書館の方々に親切にいただき、大変感謝している。特にメンターのKateさんには研修のプランニングから日常生活まであらゆる面でお世話になった。今回無事研修を全う出来たのはフリンダース大学図書館の方々によるご尽力があったからである。



メンターのKate Sinclair氏と三見
(フリンダース大学図書館をバックに)

最後に今回研修の派遣の機会を与えていただいた図書館振興財団、広島大学後援会、広島大学図書館、研修期間中きめ細かな対応をしていただいたフリンダース大学図書館に感謝致します。

古地図のささやき

研究開発室 助教 川和田 晶子

広島大学図書館に寄託される加計隅屋文庫の収蔵資料中には、司馬江漢（1747-1818）製『日本創製銅板新鑄 地球全図』（銅版画、一枚）がある。今からおよそ200年以上前、寛政4年（1792）に日本で初めて刷られた、腐食銅版画（エッチング）の世界地図〔図1〕である。

江漢は、鈴木春重という名前でも浮世絵を製作していた絵師^{みめぐりのけい}だったが、時代を先取りする才能にあふれた人物だった。彼はすでに天明3年（1783）に「三開景」という日本初の銅版画を製作していた。これは江戸隅田川の風景を、遠近法を用いて描いたものであるが、左右が逆像になった眼鏡絵の様式になっている。眼鏡絵とは、机の上に置いた遠近法を用いて描いた浮絵を、眼鏡のレンズ越しに覗き見せることで、絵が立体的に浮き上がって見えることを楽しむ、ヨーロッパから伝わった全く新しい娯楽だった。眼鏡絵の伝来は、遠近法を知らなかった日本人の視覚に革命を起こすエポックメイキングになったが、江漢はいち早くその手法を取り入れた絵画を製作し広めた先駆的役割を果たした。

西洋の文物に強い関心を持つ江漢は、先駆的な蘭学者のひとり、平賀源内（1728-1780）とも親交して、オランダから舶載された書籍を彼に見せて貰ううちに、書籍に掲載される銅版画の挿絵に魅了された。構図の比率を計算する科学性は勿論のこと、写実的で迫真する銅版画の表現力を身につけたいと考えるようになり、とうとう『解体新書』を翻訳した中津藩医の前野良澤（1723-1803）に入門し、蘭学の研究に没頭した。

西洋のエッチングの彫版と印刷について、日本で知る者は誰もいない。江漢は舶載オランダ書の翻訳から始めなければならなかった。1769-1778年にアムステルダムで発行された、ボイス（Egbert Buys）編『新修学芸百科事典』（“Nieuw en volkomen woordenboek van kunsten en wetenschappen”）、及び1743年初版のショメール（M. Noel Chomel）編『日用百科事典』（“Algemeen huishoudelijk-, natuur-, zedekundig- en konst-woordenboek”）などに記載された関連項目を、前野良澤の高弟のひとり、仙台藩医の大槻玄澤（1757-1827）に翻訳してもらいながら、江漢は試行錯誤を繰り返して日本初の銅版画製作を実現させた。なお、18世紀末から19世紀初頭にかけての銅版画の製作技法について、江漢とそのほかの蘭学者が日本で洋書から翻訳した経緯と、その後の日本の銅版画の歴史の詳細については、菅野陽著『江戸の銅版画』（1983年の新潮社版と2003年の臨川書店刊行の新装版あり）に詳しい。

銅版画の研究と製作に一応の成功を収めた江漢は、その関心を地理学にも向け、絵画に次いで世界地図の製作と印刷にも挑戦した。広島大学図書館の加計隅屋文庫所収『日本創製銅板新鑄 地球全図』は、江漢が寛政4年（1792）刊記のあるものとしては、地図の部分について銅版が摩滅しておらず、刷りの状態も良好である。さらに広島大学図書館の『地球全図』は、地図本体を包装するために付けられた袋〔図2〕も一緒に残っている。袋の表に縦三ツ割した匡郭を作って製作者名と題名などの情報を印刷しているが、その右下には「SIBA」落款が印刷され、左上にはコンパスや図書などの図柄が入った西洋風の朱色スタンプを押しており、発売当初の装丁を知る上でも貴重である。朱色スタンプは一部が不鮮明であるが、その図案には角笛を吹く天使のような像も見える。実のところ、当時はキリスト教が禁止されていた時期であり、天使の図は取り締まりの対象なので、わざと不鮮明に作ったのかもしれない。それにしても、公儀に盾突くと見なされようともヨーロッパ文化の香りを伝える図案を世界地図の装幀に含めて世の中に知らしめんとした、江漢の蘭学者としての反骨精神がここに垣間見える。

この地図の原図として、詳細年代は未詳だが、18世紀前半にアムステルダムで刊行されたコフェンス（J. Covens）とモルティエ（C. Mortier）によるフランス語版の地図だったことを、地理学者の鮎沢信太郎が研究により明らかにしている。世界地図の地理情報は、それが作られた当時の認識を反映しているので、司馬江漢がこの地図を製作していた時に、実のところ原図はすでに最新の情報とは言えなかった。その証拠として、例えば南半球の高緯度地帯にあるとヨーロッパで信じられた巨大大陸、メガラニ大洲（メガラニカ）が含まれていた。その反面で、日本本州、蝦夷、樺太と沿海州の地図の部分は、原図にはなかった18世紀末頃の最新情報に江漢が更新し、それぞれの島の間に海峡が描かれた〔図3〕。

異なる時代の地理情報を継ぎ接ぎして、18世紀後半に日本初の銅版画として製作された一枚の世界地図は、現代人からすれば科学的で実用的とは言えない。しかし当時の日本人の目線の高さに合わせて見つめた時、必ずしも現実として直視するのではなく、穏やかなまなざしで想像力を働かせながら、彼らが目の前に広がる大海の彼方にある未知の世界を好奇心と高揚感を持ちつつ眺めていたのだと、それを見つめるわれわれ現代人にささやきかけてくるように感じる。

『日本創製銅板新鑄 地球全図』と地図袋を、平成22年8月8日のオープンキャンパス行事に合わせて開始した、企画展示「世界へのまなざし - 幕末・明治の日本人 -」に出品し公開した。締めくくりにこの場を借りて、加計隅屋文庫の寄託者・加計正弘氏に展示活動へのご理解とご協力に対して、心より感謝を申し上げたい。



図1 『日本創製銅板新鑄 地球全図』より部分：東半球の図



図2 『日本創製銅板新鑄 地球全図』地図袋



図3 『日本創製銅板新鑄 地球全図』東半球の図より拡大図：日本近海

第1期中期計画期間の主要な取組・成果と今後の課題

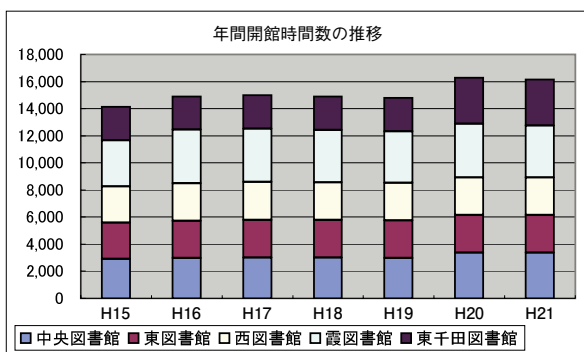
副図書館長 石井 道悦

平成16年4月に国立大学法人広島大学が発足し、平成21年度末で6年間の第1期中期計画期間が終了した。大学法人化を機に、図書館も、大学内での位置づけや運営方法を改革し、大学の目標に沿った学習・教育支援、学術研究支援、地域国際連携の3つの目標を掲げて、サービスの改善・高度化に努めてきた。本稿では、第1期中期計画期間における主要な取組・成果・改善事項と第2期中期計画に向けた主要な課題をまとめてご報告し、この間の主要な図書館活動の指標の推移をご紹介します。

	第1期の主要な取組事項・成果・改善事項	第2期に向けた主要な課題
A、 学習 教育 支援	1. 学習環境の整備 中央図書館ラーニングコモンズ整備、霞図書館閲覧室の拡張改修ほか 2. 情報リテラシー教育支援 「情報活用基礎」及び「教養ゼミ」利用案内担当と規模拡大・内容改善 3. 開館時間の拡大 8:30開館 平日22時 土日開館拡大 試験期等の祝日開館・時間延長 4. 学生用資料の整備 コースリザーブ制度 選書方式整備・多様化 学生選書、希望図書拡充	引き続き、学習・教育支援機能の向上・多様化を目指す。 ・ラーニングコモンズを活用した利用支援の展開 ・その他の館における学習環境整備 ・教員・授業連携の強化 ・選書機能の強化
B、 学術 研究 支援	1. 電子的情報基盤の整備 全学的な選定ルールと財源措置の合意（H17及びH21） 利用可能なコンテンツの安定と拡大 バックファイル導入 2. 学術情報資源の検索機能改善 統合検索ソフトの導入（H20）、目録週及入力（6年間で約25万冊） 3. Webサービスの拡充等 文献複写 図書借用 レファレンスのWeb受付 メールマガジン刊行 4. コレクション整備など フェニックス文庫、平和学コレクション開設 資料収容力の確保 集密書架整備 不用図書除却など	引き続き、資料基盤の安定的な整備を進める。 中央館に資料保存機能を集約し、全学共同利用を促進する。 ・自動書庫の新営と研究室等配置 資料引取促進 ・目録週及入力を進め、人社系完了を目指す。 ・電子書籍の動向を注視し、必要な整備を図る。
C、 地域 国際 連携	1. 公開・地域・国際連携事業 図書館フレンドリー制度新設 国際・地域交流プラザの開設 各種イベント・展示会の活性化 ストックフォルム平和学研究所連携事業 SIPRI年鑑翻訳刊行など 2. 機関リポジトリ構築・運用 H18公開 3. 広島大学出版会 H20から運営引継ぎ 4. 貴重資料の電子化 被ばく関連DB、今中文庫、土地租税資料など 5. 地域図書館連携 広島県内公共図書館連携 広島県大学共同リポジトリ など	引き続き、図書館公開と研究成果発信を促進する。 ・リポジトリへの成果登載率の向上 ・図書館貴重資料の整理・公開促進 ・出版会のあり方等についての全学的な合意を形成する。 引き続き、地域・地区・全国の図書館と連携し、応分の役割を果たす。
D、 管理 運営	1. 図書館組織の改革 図書館運営委員会を廃止し、運営戦略会議、図書選書会議を設置 図書館長の選考を学長指名制に変更（H16） 担当副学長の設置（H21） 事務組織改組 1部2課→5グループ（H16）→3グループ（H18）→部課長制廃止（H20） 研究開発室の設置（H17） 2. 業務改善・合理化 利用者アンケート H18以降、毎年実施 整理業務の全館集約化 資料搬送委託拡大 職員削減 学生スタッフの活用 管理運営費の節減 3. 職員の能力開発 海外派遣研修 全国・地区での研修会等への講師派遣 研修機会増	引き続き、機動的な運営と業務合理化に努める。 ・利用者のニーズを的確に運営・サービスに反映する。 ・引き続き、業務の見直し・合理化を進める。 ・学生スタッフの活用・拡大によってサービス体制を構築する。 引き続き、諸課題の実現を担う職員の育成に努める。

(第1期中期計画期間における主要指標の推移)

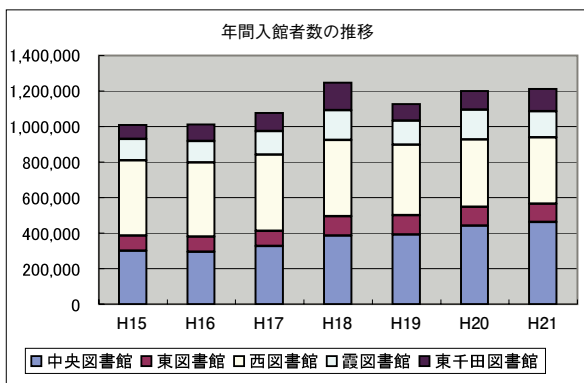
1. 図書館の開館時間



○開館時間は、平成15年度比15%増である。

全館 H16から9:00開館を8:30開館に
中央図書館 H20から平日・土日1時間延長
霞図書館 H20から平日・土日1.5時間延長
東千田図書館 H20から22:00までの開館延長
その他、全館で試験期臨時延長、土日の開館拡大を実施

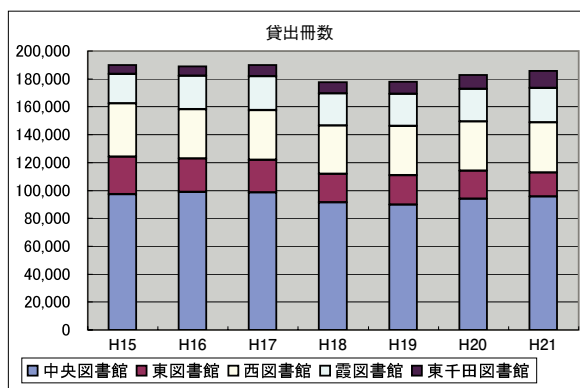
2. 入館者数



○図書館入館者数は、平成15年度比20%増である。

西図書館を除き、入館者は増加。特に、中央図書館・東千田図書館の増加が著しい。西図書館の減少は、学内LAN、パソコン普及による影響によるものと思われる。

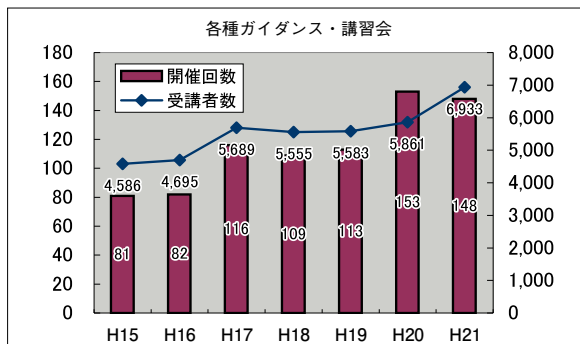
3. 貸出冊数



○貸出冊数は、平成15年度比2%減である。

しかし、H18以降は増加基調にある。
・東千田図書館の大幅増加は、H19に基本的な学習書を重点整備した成果と思われる。

4. 図書館各種ガイダンス・講習会



○H21実施の図書館ガイダンス・講習会主要メニュー
図書館利用案内

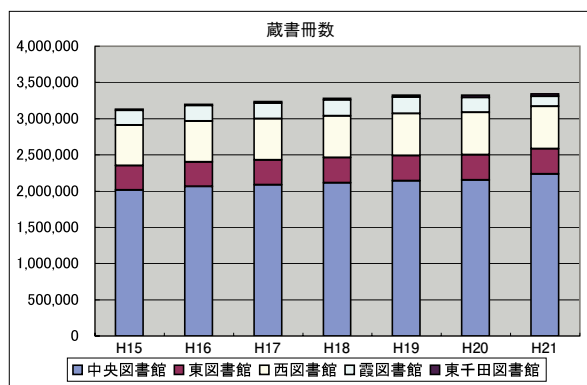
新入生オリエンテーション「図書館ガイダンス」
教養ゼミ「図書館利用案内」
各研究科別大学院生ガイダンス
外国人留学生向けオリエンテーション
大学院編入学生向けオリエンテーション
学外利用者向けオリエンテーション
看護師研修生ガイダンス 地域看護師講習会
情報活用基礎（実習）「学術情報の探索と利用」
図書館定期講習会 オンデマンド講習会
業者各種データベース講習会

5. 図書館の公開展示会等

	H17	H18	H19	H20	H21
展示回数	6	8	9	10	10
入場者数	記録なし	記録なし	6,976	9,323	10,227

○H21実施の図書館地域・国際交流プラザ企画展
図書館主催2回 学生団体4回 地域・自治体主催4回

6. 全学蔵書冊数

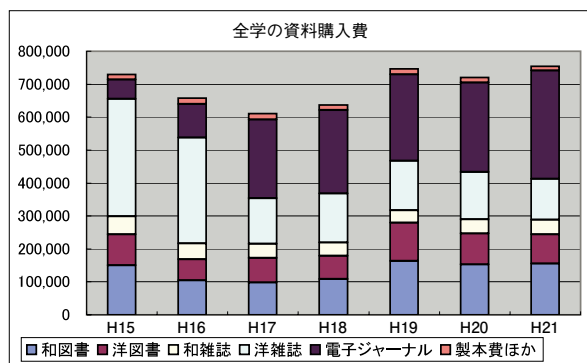


	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
中央	2,015,835	2,062,525	2,087,915	2,114,475	2,140,865	2,150,501	2,235,724
東	333,473	337,786	341,942	346,393	350,339	352,455	348,036
西	558,993	564,325	569,763	574,515	580,159	582,767	586,684
霞	206,905	213,789	216,993	221,596	225,318	207,273	138,543
東千田	18,620	20,761	22,347	24,423	28,318	31,893	33,993
計	3,133,826	3,199,186	3,238,960	3,281,402	3,324,999	3,324,889	3,342,980
指数(H15=100)	100	102.1	103.4	104.7	106.1	106.1	106.7
除却処理冊数	17,220	74	916	1,060	967	45,397	25,572

○蔵書冊数は、平成15年度比 約20万冊 7%の増である。

- ・この間、重複資料等91千冊余りの除却を実施しているが、図書館の資料収容力が限界を迎えている。概に研究室からの資料返却が円滑に実施できない事態となっており、中央図書館に自動書庫設置を計画・要求中である。
- ・また、学内事業費及び学部資金により、約25万冊の目録選及入力を実施した。

7. 全学の資料購入費



	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
和図書	150,383	104,854	97,459	108,589	162,495	152,752	155,097
洋図書	94,048	64,127	75,022	70,118	116,265	94,230	89,586
和雑誌	54,864	48,160	42,876	40,373	38,492	43,178	43,197
洋雑誌	355,776	320,835	137,904	148,623	149,739	143,374	124,414
電子ジャーナル	58,967	101,139	238,869	253,391	263,018	270,589	328,682
製本費ほか	15,926	18,321	18,416	15,289	16,345	16,640	12,739
計	729,964	657,436	610,546	636,383	746,354	720,763	753,715
指数(H15=100)	100	90.1	83.6	87.2	102.2	98.7	103.3

○全学の資料購入費は、平成15年度比 約24百万 3.3%増。

- ・この間に、外国雑誌購入費が約1/3に減少し、その分、電子ジャーナル等経費が増加した。
- ・図書購入費は、H18まで大幅に減少したが、その後回復。
- ・和雑誌、製本費は漸減している。

8. 図書受入冊数

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	指数(H15=100)
和図書(購入)	32,185	20,303	18,188	21,580	22,805	23,084	22,365	69.5
洋図書(購入)	9,257	4,888	4,480	4,695	5,715	4,800	4,454	48.1
寄贈	7,301	27,836	8,472	9,785	8,400	9,990	9,969	136.5
製本など	4,301	9,971	9,550	7,442	7,721	7,413	7,213	167.7
計	53,044	62,998	40,690	43,502	44,641	45,287	44,001	83.0
指数(H15=100)	100	118.8	76.7	82.0	84.2	85.4	83.0	

○法人化前後の特殊な変動を除き、H17以降は安定しているが、洋図書購入と製本は減少傾向にある。

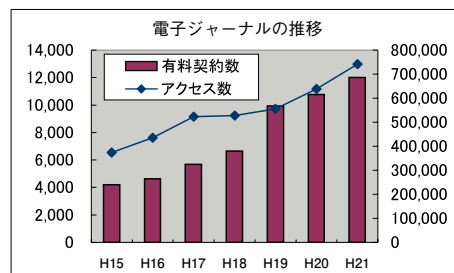
9. 雑誌受入タイトル数

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	指数(H15=100)
和雑誌(購入)	3,408	3,104	2,853	2,684	2,711	2,690	2,653	77.8
洋雑誌(購入)	4,002	3,795	2,130	1,818	1,910	1,888	1,848	46.2
寄贈	4,251	3,763	5,356	5,309	5,388	6,275	5,276	124.1
計	11,661	10,662	10,339	9,811	10,009	10,853	9,777	83.8
指数(H15=100)	100	91.4	88.7	84.1	85.8	93.1	83.8	

○外国雑誌の購入受入タイトル数は、この間に半減している。和雑誌購入受入タイトル数も、漸減している。

10. 電子資料の整備と利用

(電子ジャーナル)



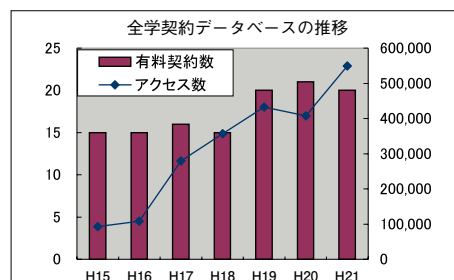
	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	種/件数
電子ジャーナル								
有料契約数	4,213	4,642	5,675	6,650	9,930	10,763	12,002	284.9
アクセス数	374,569	435,318	522,537	526,965	555,217	639,219	741,471	198.0
指数(H15=100)	100	116.2	139.5	140.7	148.2	170.7	198.0	

○平成15年度比、有料契約点数 約3倍、アクセス数 2倍

・主要なEJアクセス数 (H21)

Elsevier	425,112	Nature社	63,739
Wiley	86,327	Springer	54,855
ACS	77,852		

(データベース)



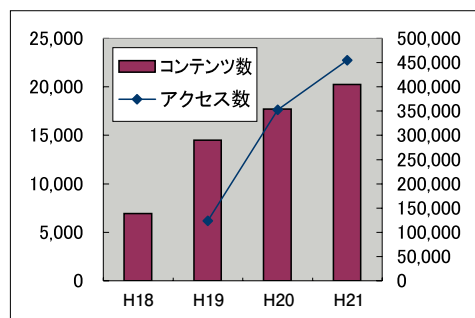
	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	種/件数
データベース								
有料契約数	15	15	16	15	20	21	20	133.3
アクセス数	92,577	107,825	279,538	357,162	432,147	407,528	549,280	593.3
指数(H15=100)	100	116.5	302.0	385.8	466.8	440.2	593.3	

○平成15年度比、アクセス数は6倍と急増

・主要なDBアクセス数 (H21)

CiNII	420,287	WOS	42,768
医中誌	100,911	EBSCO ASP	24,354
SciFinder	62,458		

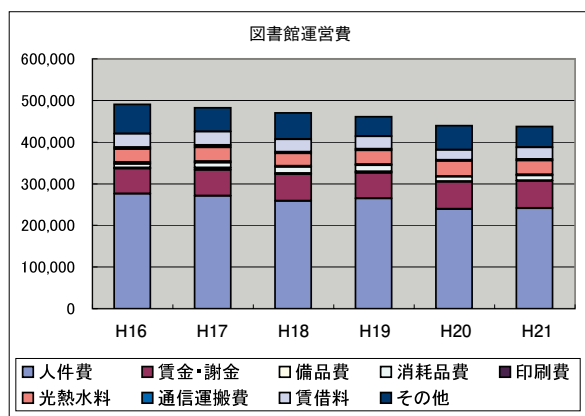
11. 学術情報リポジトリの整備と利用



	H18	H19	H20	H21
コンテンツ数	6,923	14,513	17,710	20,257
アクセス数		123,897	352,688	454,687

○広島大学学術情報リポジトリ<HIR>は、平成17年度に開発
平成18年度から公開
・順調に収録コンテンツ数、アクセス数が伸びている。

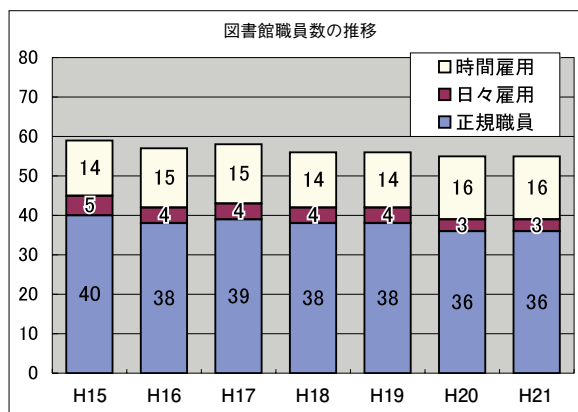
12. 図書館運営費



	H16	H17	H18	H19	H20	H21	指数 (H16=100)
人 件 費	275,637	270,634	258,232	264,243	239,269	240,964	87.4
賃金・謝金	61,117	62,602	64,455	62,203	64,951	65,817	107.7
小 計	336,754	333,236	322,687	326,446	304,220	306,781	91.1
備 品 費	1,264	4,796	2,523	3,010	1,171	545	43.1
消耗品費	9,743	12,373	15,027	14,923	11,805	12,550	128.8
印 刷 費	3,482	3,609	2,522	2,351	854	1,664	47.8
光熱水料	32,251	33,067	30,221	33,607	36,244	34,563	107.2
通信運搬費	3,570	5,910	2,747	2,578	2,565	2,581	72.3
賃 借 料	32,595	31,933	31,101	31,032	24,592	28,700	88.1
そ の 他	70,884	57,636	63,162	47,470	58,058	50,050	70.6
小 計	153,789	149,324	147,303	134,971	135,289	130,653	85.0
合 計	490,543	482,560	469,990	461,417	439,509	437,434	89.2
指数 (H16=100)	100.0	98.4	95.8	94.1	89.6	89.2	

○図書館運営費は、平成16年度比 約5300万円 10.8%の減
・人件費（正規職員分）は、12.6%の減
賃金・謝金（パート職員・学生アルバイト）は、7.7%の増
人件費トータルでは、8.9% 約3000万円の減である。
・人件費を除くその他の運営費は、15% 約2300万円の減

13. 図書館職員数



	図書館職員数				学生雇用時間数		
	正規職員	日々雇用	時間雇用	計	夜間休日開館委員	カウンター補助委員	作業系アルバイト
H15	40	5	14	59	10,878	0	2,043
H16	38	4	15	57	13,161	0	1,178
H17	39	4	15	58	13,245	0	1,856
H18	38	4	14	56	13,302	400	1,371
H19	38	4	14	56	13,233	612	1,392
H20	36	3	16	55	13,765	890	1,374
H21	36	3	16	55	13,912	906	1,380

○図書館正規職員は、平成15年度の40名→36名
日々雇用職員は5名→3名、時間雇用職員は14名→17名
・職員の削減には、以下の方針で対処した。
1) 各館業務の中央図書館への集約化
2) 整理業務の標準化・合理化
3) サービスの自動化・Web化 自動貸出機 複写依頼等
4) サービス部門職員の可能な限りの維持
・この間の正規職員の配置変動は、以下のとおり

	H15	H21	備考
中央 管理・整理部門	19	17	管理職を含む。
中央 サービス部門	9	10	
東	2	1	
西	3	1	
霞	6	3	
東 千 田	1	1	

霞図書館の改修について

図書学術情報普及グループ 広島地区フロアサービス担当 藤井 武志

昨年より行っておりました霞図書館トイレ改修および閲覧室拡張改修などが平成22年3月に終了しました。今回の改修は施設の狭隘解消、学習環境整備を目的としたものです。改修の主な内容は以下のとおりです。生まれ変わった霞図書館を是非ご利用下さい。

1. 閲覧室の拡張

霞図書館は閲覧席数が少なく、アンケート等でも増席の要望が多く寄せられていました。利用者の要望に応えるべく、この度閲覧座席を約50席増設しました。椅子は赤で揃えとても明るい雰囲気となりました。特に女性の利用者から好評をいただいております。



増設された1階閲覧席

2. 開架書架を全て更新

開架書架を全て入れ替えました。従来の天井まであった危険箇所部分は全て取り去りました。各書架の間の照明が以前に比べ明るくなり、本のタイトルも見えやすくなりました。また、利用者の便利を考慮し、図書は1階、雑誌は2階へと移動し、資料配置を分かりやすくしました。



新しい書架

3. トイレの改修

トイレの改修についてもアンケート等で多くの要望が寄せられておりました。この度、1、2階のトイレを全て改修し、新品同様となりました。ゆったりとしたスペースとなり好評を得ています。

4. 利用者パソコンの増設

2階メディアルームにメディアセンターの情報端末15台、プリンター1台を新設しました。2階の利用者用パソコンは全部で25台となり、さらに便利になりました。従来のパソコン（10台）は隣の多目的室で引き続き利用出来ます。今回の増設により1階ロビーの情報検索用パソコン10台を含め、合計35台となりました。2階のパソコンではOfficeをはじめ各種ソフトウェアを利用した幅広い利用が可能です。

平成21年度図書館利用者アンケート報告書 (平成22年3月)

図書学術情報企画グループ企画調整主担当 尾崎 文代

1. 目的

昨年度に引き続き、利用者の満足度を調査し今後の図書館サービス展開の参考とするため、全学の図書館利用者を対象にアンケートを実施した。

2. 実施方法

平成22年1月15日から3月8日までの期間、図書館ホームページにアンケートページを設置し、以下の方法で利用者に回答を依頼し、集計した。

- ・学生「もみじ（掲示板）」にアンケート回答依頼文書を掲載。（3回）
- ・教職員 電子掲示板にアンケート回答依頼文書を掲載。（3回）
- ・各館にポスターを掲示。

3. 回答数

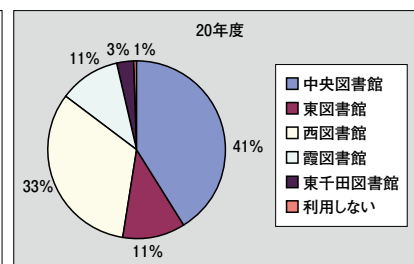
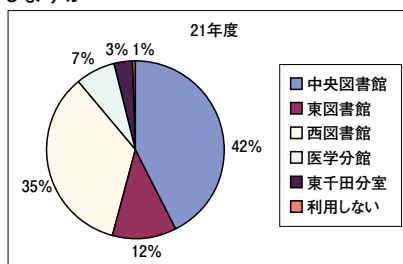
- (Q1/Q2) ・411
・利用者区分別回答数

	回 答		在籍者比回答率	
	件 数	構成率	在籍者数	回答率
学部学生	253	61.50%	10,978	2.30%
留学生（学部学生）	0	0%		
大学院生	76	18.50%	4,521	1.72%
留学生（大学院学生）	2	0.50%		
研究生	4	1.00%	305	1.31%
教員	28	6.80%	1,803	1.55%
事務・技術系職員ほか	48	11.70%	1,528	3.14%
計	411	100.00%	19,135	2.14%

Q3 あなたは、次のどの図書館を利用しますか

中央図書館	308
東図書館	85
西図書館	252
医学分館	51
東千田分室	24
利用しない	4

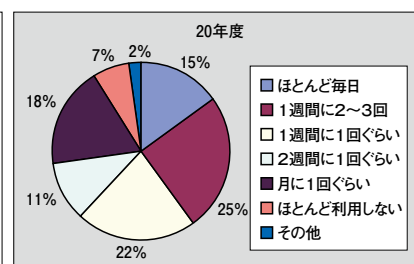
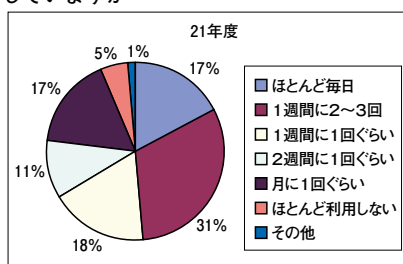
●利用する図書館の割合はほぼ昨年どおりでした。



Q4 あなたは、図書館をどの程度利用していますか

ほとんど毎日	71
1週間に2～3回	129
1週間に1回ぐらい	73
2週間に1回ぐらい	44
月に1回ぐらい	68
ほとんど利用しない	21
その他	5

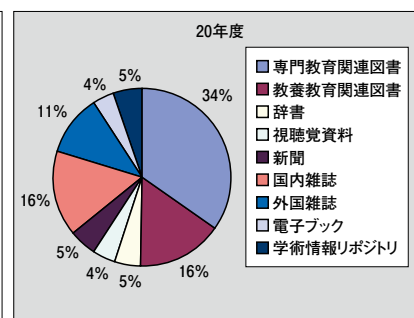
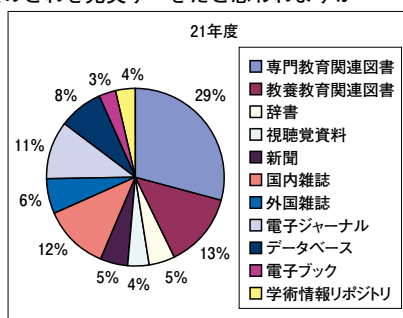
●利用率は昨年より若干増えています。利用しない理由としては、遠い、時間がない、読みたい本がない、オンラインでまかなえる、などの意見がありました。



Q5 あなたは、図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思いますか

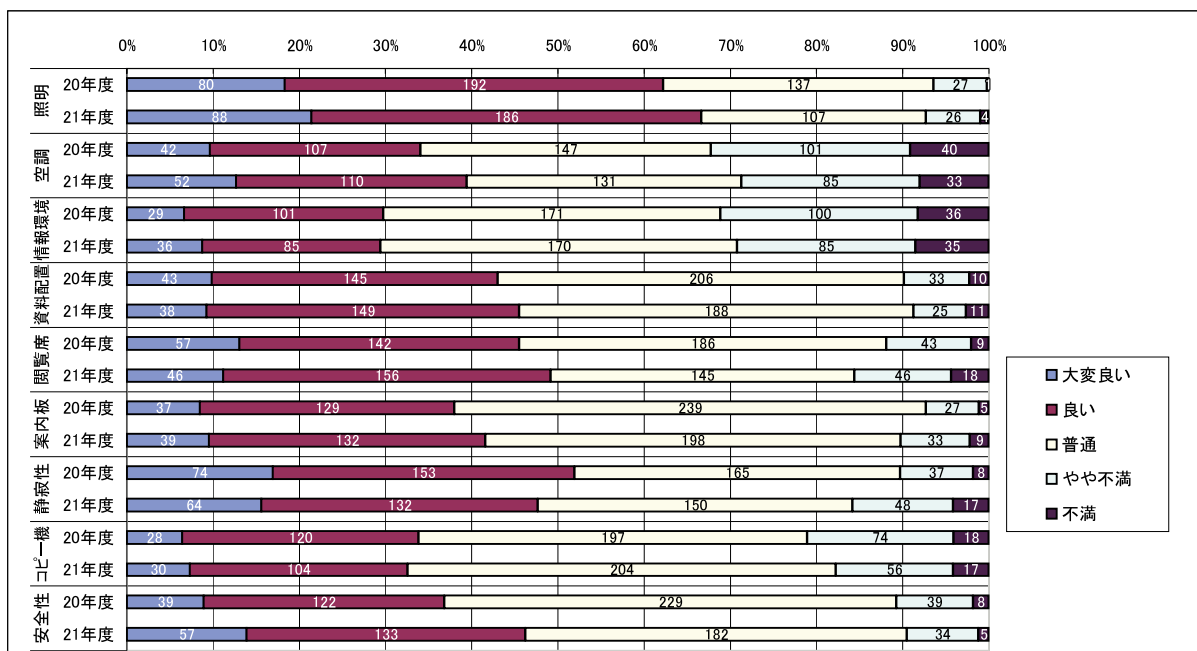
専門教育関連図書	278
教養教育関連図書	127
辞書	45
視聴覚資料	37
新聞	47
国内雑誌	114
外国雑誌	59
電子ジャーナル	100
データベース	76
電子ブック	28
学術情報リポジトリ	34

●その他、小説類、新しい本を入れて欲しい、という声が多くありました。



Q6 あなたは、図書館の環境についてどう思われますか

	大変良い	良い	普通	やや不満	不満
照明	88	186	107	26	4
空調	52	110	131	85	33
情報環境	36	85	170	85	35
資料の配置	38	149	188	25	11
閲覧席	46	156	145	46	18
案内板等	39	132	198	33	9
静寂性	64	132	150	48	17
コピー機	30	104	204	56	17
安全性	57	133	182	34	5



【空 調】フル稼働を行っておりますが、機器の老朽化により冷房の利が悪く、暖房の温度調節も難しい状況です。少しでも快適な学習環境を提供できるよう、引き続き設備の改修を検討していきます。

【情報環境】平成22年9月より、中央図書館にパソコン54台の増設を行いました。東図書館についても10台を入れ替えました。

【閱 覧 席】平成22年4月、中央図書館・震図書館の改修により、閲覧席がそれぞれ110席・50席増加しました。ご利用ください。

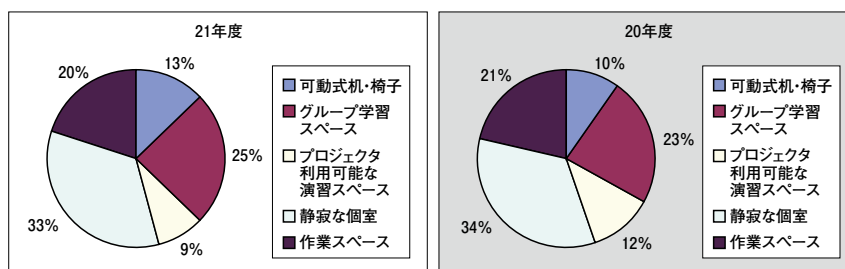
【静 寂 性】中央図書館では、平成22年4月より、グループ学習の可能なエリア（ラーニング・commons「BIBLA」グループワークエリア）を設けています。また、従来のグループ閲覧室の一部に防音工事を実施しました。

【安 全 性】書庫および閲覧室について、職員による巡回を行っています。

Q7 あなたは、学習のために図書館にどのようなスペース等があるかと思うわれますか

可動式机・椅子	78
グループ学習スペース	150
プロジェクト利用可能な演習スペース	52
静寂な個室	208
作業スペース	122

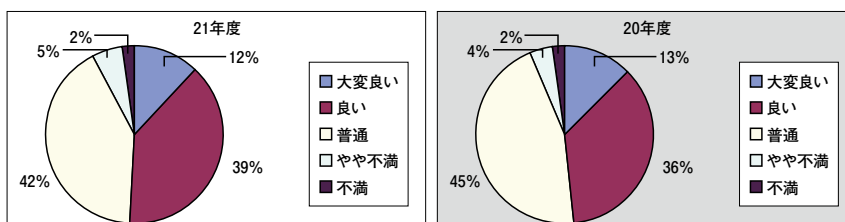
●その他、パーティション、キャレル、コピー機の近くに机がほしい、話してもいい場所と静かな場所を分ける、などの意見がありました。2010年4月より、中央図書館・東図書館にグループ学習可能なスペースを設けましたので、どうぞご利用ください。



Q8 あなたは、図書館の貸出冊数についてどう思われますか

大変良い	50
良い	159
普通	171
やや不満	22
不満	9

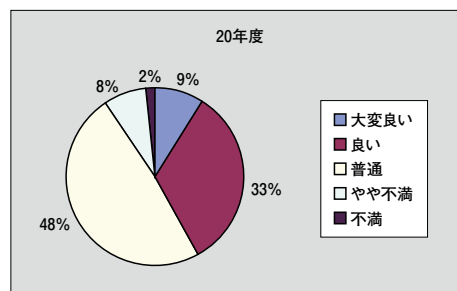
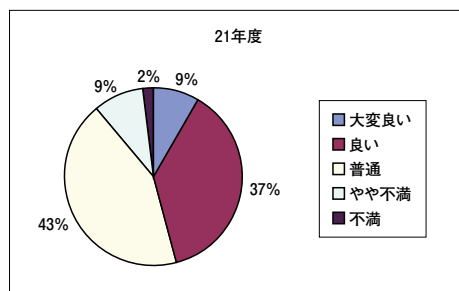
●昨年度とほぼ同じ割合となりました。不満理由としては、貸出冊数が少ない、という意見でした。



Q9 あなたは、図書館の貸出期間についてどう思われますか

大変良い	35
良い	154
普通	177
やや不満	38
不満	7

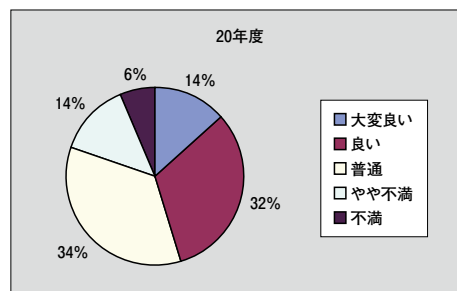
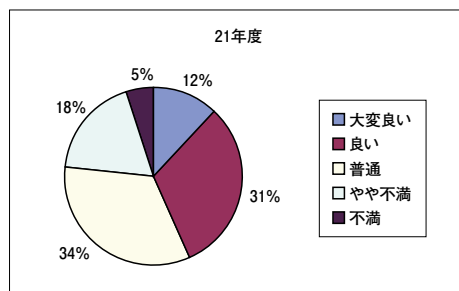
●試験中は延長してほしい、20日という区切りよりも3週間の方が返却しやすい、という意見がありました。



Q10 あなたは、図書館の開館時間についてどう思われますか

大変良い	50
良い	129
普通	137
やや不満	75
不満	20

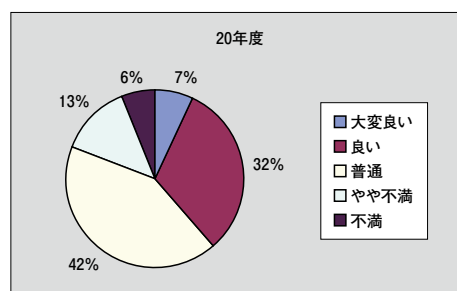
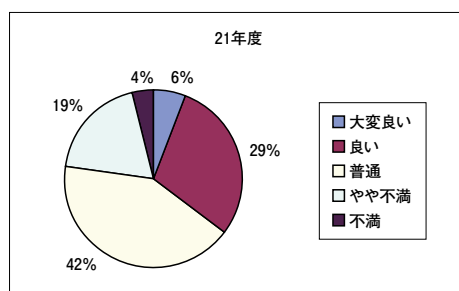
●一昨年度より中央図書館・霞図書館での時間延長を行いました。今後もみなさまに満足頂けるように検討していきたいと思ひます。



Q11 あなたは、図書館の開館日についてどう思われますか

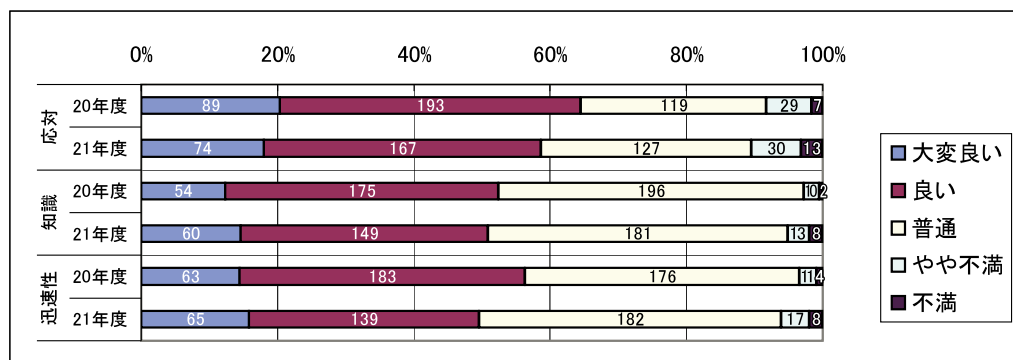
大変良い	25
良い	120
普通	173
やや不満	78
不満	15

●月1回の閉館日への不満が寄せられました。図書や環境整備作業を行っていますのでご理解いただければと思います。



Q12 あなたは、図書館の職員についてどう思われますか

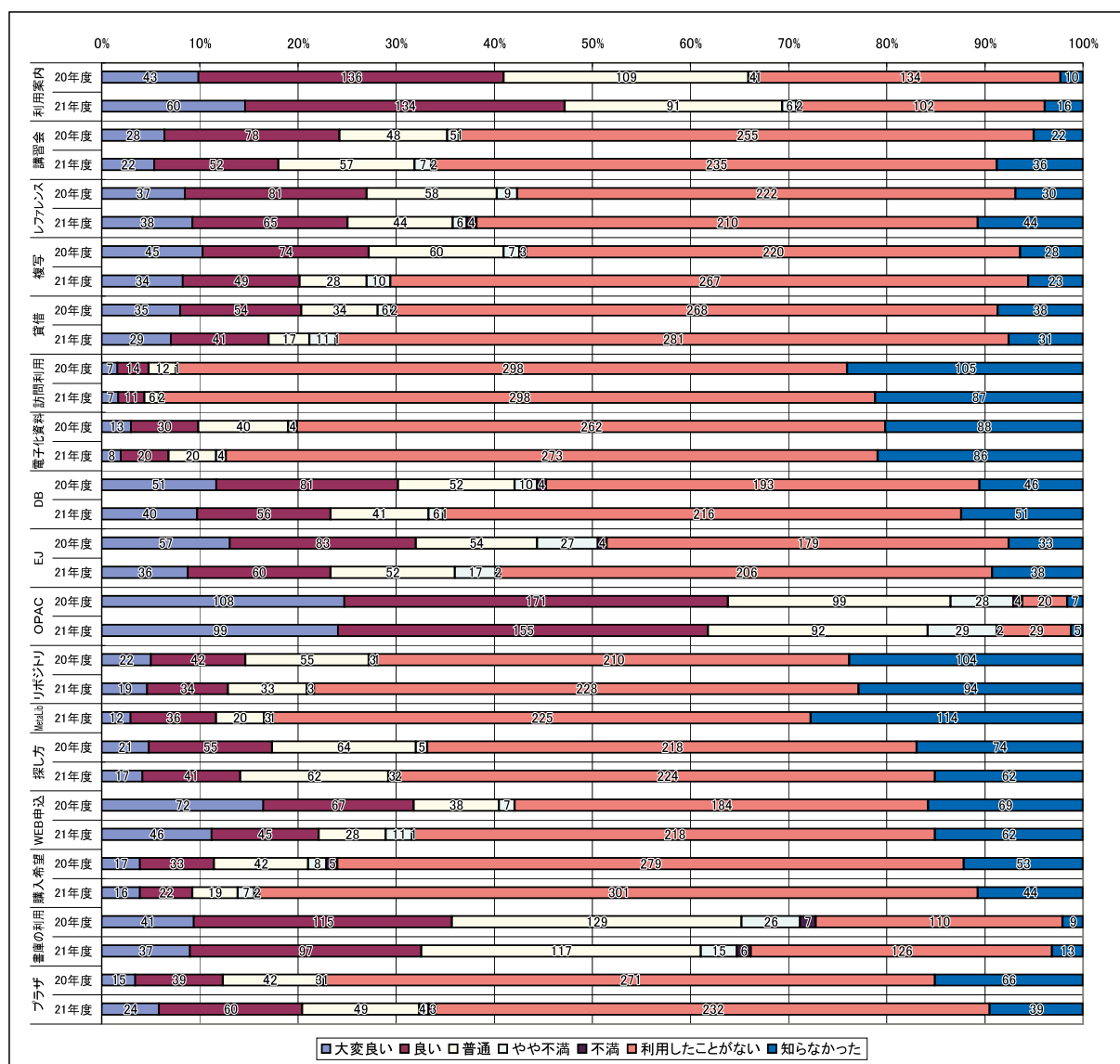
	大変良い	良い	普通	やや不満	不満
応対	74	167	127	30	13
知識	60	149	181	13	8
迅速性	65	139	182	17	8



●高圧的、窓口には窓口のプロを置いてほしい、などの意見がありました。今後とも、アルバイトを含め、よりよい対応できるように職員の教育をすすめてまいります。

Q13 あなたは、次の図書館サービスを利用したことがありますか

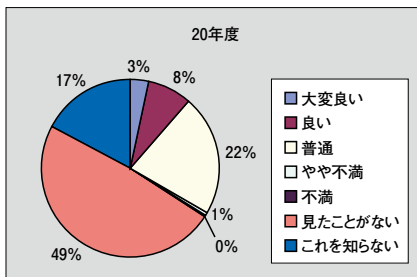
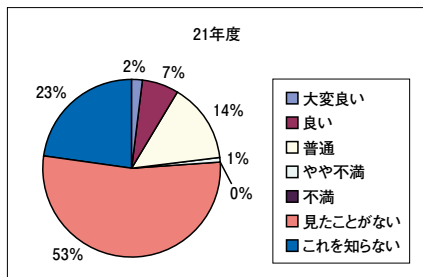
	大変良い	良い	普通	やや不満	不満	利用したことがない	知らなかった
利用案内	60	134	91	6	2	102	16
各種講習会	22	52	57	7	2	235	36
レファレンスサービス	38	65	44	6	4	210	44
文献複写依頼	34	49	28	10		267	23
現物貸借依頼	29	41	17	11	1	281	31
他大学訪問利用	7	11	6	2		298	87
当館作成の電子化資料	8	20	20	4		273	86
データベース	40	56	41	6	1	216	51
電子ジャーナル	36	60	52	17	2	206	38
OPAC	99	155	92	29	2	29	5
学術情報リポジトリ	19	34	33	3		228	94
MetaLib/SFX	12	36	20	3	1	225	114
資料の探し方	17	41	62	3	2	224	62
WEBからの文献複写・図書借用申込	46	45	28	11	1	218	62
図書の購入リクエスト	16	22	19	7	2	301	44
書庫の利用	37	97	117	15	6	126	13
地域国際交流プラザ	24	60	49	4	3	232	39



- よく利用されているのは、OPAC、電子ジャーナル、データベース、Webからの申込、文献複写であり、逆に利用したことがないものは、訪問利用、電子化資料、購入希望などでした。地域国際交流プラザは認知度が上がりましたが、21年度から開始したMetaLib/SFXなど、認知度の低いサービスの広報を進めていきたいと考えます。また、良い資料を揃えるためにも積極的に購入希望制度を利用してください。

Q14 あなたは、図書館の広報（「図書館報リエゾン」、「メールマガジン」等）を見たことがありますか

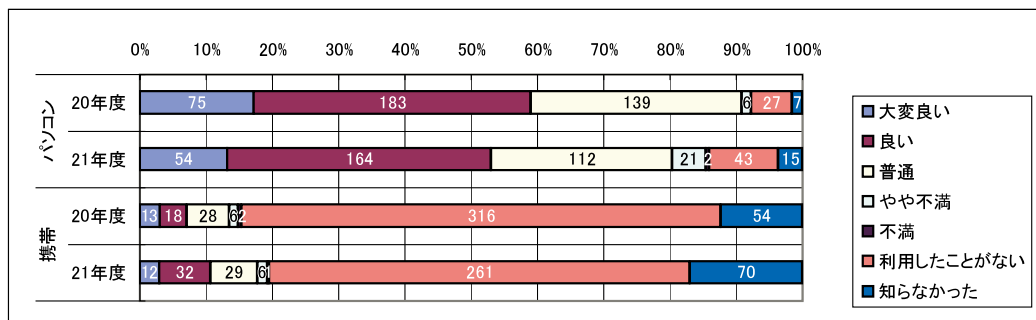
大変良い	8
良い	28
普通	59
やや不満	4
不満	0
見たことがない	219
これを知らない	93



●昨年度より、メールマガジンの購読登録を始めました。ぜひご利用ください。

Q15 あなたは、図書館のホームページ（パソコン・携帯版）にアクセスしたことがありますか

	パソコンから	携帯電話から
大変良い	54	12
良い	164	32
普通	112	29
やや不満	21	6
不満	2	1
利用したことがない	43	261
知らなかった	15	70



●平成21年12月に、図書館ホームページをリニューアルしました。よりわかりやすいページを目指して今後とも改良を重ねていきます。

講演会・研修会 等

図書学術情報企画グループ企画調整主担当 尾崎 文代

平成21年7月以降、広島大学図書館が開催した講演会・研修会などをご紹介します。多数のご参加を頂きありがとうございました。(講師等の所属は開催当時のものです。)

1. 広島市立図書館・広島大学図書館連携事業 講演会「図書館の見る夢は」

http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/topics/hiroshima_city_20090704.pdf

日時：平成21年7月4日(土)

会場：広島市立中央図書館セミナー室

主催：広島市立図書館 広島大学図書館

プログラム

- ・講演「学者市長の遺言」佐々木れい(広島大学非常勤講師)
- ・講演「大連の月」佐藤正樹(広島大学図書館長)

2. 中国四国・九州沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー

<http://simone2.lib.okayama-u.ac.jp/modules/d3blog/details.php?bid=5>

日時：平成21年9月17日(木)～18日(金)

会場：広島大学図書館ライブラリーホール

主催：中国四国地区大学図書館協議会 国立大学図書館協会中国四国地区協会
国立大学図書館協会九州地区協会

プログラム

- ・基調講演「変貌する大学システムと大学図書館の在り方」平元健史(関西外国語大学教授)
- ・講義1「インターネット(デジタル化)全入時代の閲覧サービス」吉村達裕(広島修道大学図書館)
- ・講義2「地域連携・公開事業」西本篤夫(広島大学図書館)
- ・講義3「海外大学図書館事情」宮原詩麻(広島経済大学図書館)
- ・講義4「目録業務」萱野靖子(広島大学図書館)
- ・講義5「電子ジャーナル・機関リポジトリ」竹下啓行(岡山大学附属図書館)
- ・講義6「相互利用と著作権」丸岡有恵(広島市立大学附属図書館)
- ・講義7「情報リテラシー教育」昌子喜信(島根大学附属図書館)
- ・グループ討議・発表



3. 平成21年度国立大学図書館協会地区助成事業(中国四国地区)

情報リテラシー教育担当者研修会

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/topics/100121ws/100121ws.html>

日時：平成22年1月21日(木)～22日(金)

会場：広島大学図書館ライブラリーホール

主催：国立大学図書館協会中国四国地区協会

共催：中国四国地区大学図書館協議会・広島県大学図書館協議会

プログラム

- ・基調講演「情報リテラシー教育の理念と方法」野末俊比古(青山学院大学准教授)
- ・講演「『文脈』で考える！情報リテラシー教育」上原恵美(大阪大学附属図書館)
- ・事例報告 筒井富美子(愛媛大学)・川上ちぐさ(徳島大学)・塚本絢子(広島大学)
- ・グループ討議・発表



4. 学生と館長との懇談会「図書館長と語ろう」

http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/kanchokon21/kanchoko_to_kataro21.html

日時：平成22年2月12日(金) 15時～17時

場所：図書館長室

図書館を利用する皆さんが学習や研究を進める上で感じている要望や感想を、図書館長が直接伺いました。いただいたご意見を今後の図書館運営に役立てていきたいと考えています。

地域・国際交流プラザ企画展示報告

図書学術情報普及グループ 地域交流主担当 西本 篤夫

展 示 名	主催者	開催期間	入場者数	備 考
世界の笑顔写真展 ～ Smiles around the world ～	PeaCH	平成21年 4/10～26	793人	広大の学生や一般の人々が撮影した世界の笑顔を展示することで、「遠い」ように思える外国やそこに暮らす人々を、より身近に感じてもらう。
大相撲今昔展 ～ 広大図書館場所 ～	相撲史跡研究家 世良正明	5/9～24	674人	相撲及び大相撲が単なるスポーツではなく、神事・古典芸能・無形民俗文化財の側面を持つことを紹介する。
第4回 原爆と戦争展 ～ 語られなかった原爆と第二次大戦の真実 ～	原爆展を成功させる 広島人会	6/2～16	985人	原爆と第二次大戦の死没者の霊を慰め、再びあのような惨禍が繰り返されないように、被爆と先の大戦の実態を若い世代に語り継ぐこと。
第3回 東広島観光展 ～ 東広島の魅力発見! ～	東広島市観光協会	6/27～ 7/12	1,622人	4年間に東広島で過ごす学生と多くの市民に東広島の魅力を知ってもらう。
中国四川大地震写真展 ～ あの日から一年 ～	広島大学中国留学生 学友会	7/16～8/2	751人	四川大地震から一年たったので、地震で命を失った同胞への追悼の意を表し被災地の復興の様子を紹介しながら日本の支援に対して感謝の意を表す。
図書館オープンキャンパス 企画展示「広大図書館の展示ダイジェスト2008」	図書館	8/7～26	1,182人	2008年度に開催した展示の中からいくつかを選び、地域交流、国際・平和、学生企画、図書コレクションのテーマごとに、ダイジェストで紹介する。
中国の成長写真展	広島大学中国留学生 学友会	10/1～21	1,074人	中国の成長を一般の日本人、特に学生に紹介し、中国の現状に対して理解を深めてもらう。
図書館ホームカミングデー 企画展示「広島大学図書館 所蔵貴重資料展」	図書館	11/7～ 12/6	1,341人	ホームカミングデーで大学に来られる広島大学にゆかりのある方や市民の方に広島大学図書館を知ってもらうために、特徴的な貴重資料を紹介する。
呉の観光展 in 広島大学	呉市	12/17～ 平成22年 1/13	666人	呉市を紹介する観光展を開催し、学生及び地域住民の呉市への関心を高め、交流を拡大させる。
広島大学アクリル水彩同好会 卒展	広島大学アクリル 水彩同好会	1/22～ 2/14	1,139人	同好会の卒業予定者が、卒業の記念にアクリル水彩同好会での活動の成果を発表する。
			計10,227人	

展示企画を募集しています。場所は中央図書館「地域・国際交流プラザ」です。

お問い合わせ先

図書学術情報普及グループ 地域交流主担当 内線：6207

E-mail：tosho-fukyu-chiki@office.hiroshima-u.ac.jp

図書館ホームページ→「利用案内」→「地域・国際交流プラザ（展示会場）」を参照してください。

図書館トピックス (H21ー現在)

●戦後の教科書がOPACで検索可能になりました

昨年度、特殊コレクション委員会（赤迫委員長）が中心になって未登録の教科書を整理し、昭和24年以降の教科書及び指導書のうち、約2万冊をデータ登録しました。残りの教科書についても順次登録をしていく予定です。

今回登録した教科書は、中央図書館の特別資料室に配架されていますので貸出はできませんが、OPACで検索して、貸出・返却カウンターへ申し込みすれば館内閲覧ができます。

また、最新版の教科書は中央図書館2階の教科書コーナーに配架してありますので、手にとって見ることも、借り出すこともできます。

なお、今までどおり教科書コレクションでは、江戸時代の寺子屋で使用された「往来物」から昭和25年までのものの画像化したものを見ることができます。

(<http://cross.lib.hiroshima-u.ac.jp/>)

●中央図書館地下書庫並べ直し作業終了(教育学部分)

中央図書館地下2階書庫の図書の並びの単純化作業を行いました。

この作業は、講座・専攻等ごとに配架されていた図書を学部単位での配架に一本化するもので、文学部分は平成21年度に終了しています。今回は、教育学部分の図書を並べ替えました。

狭い書庫の中で複雑に配架された図書を並べ替えるには、複雑な作業に対応できる作業要員をある程度の期間確保することが必要です。長年実現困難と考えられていた作業でしたが、昨年度は学内措置により、また今年度は県の就職支援活動の一環として長期に渡り作業要員を確保し、書庫全体の図書の並び一本化という最終目標に一步近づくことができました。

書架管理はサービス業務の中でも非常に地味な部分ですが、図書館業務の基本でもあります。広島大学図書館は、電子資料も印刷媒体資料も利用しやすいハイブリットライブラリーを目指し、地道な作業にも積極的に取り組んでいます。

●CSI委託事業（学術情報リポジトリ）

2005年から継続受託している国立情報学研究所の学術機関リポジトリ構築支援事業費を、今年度も受託しました。

今年度は、「機関リポジトリの地域コミュニティ活性化」プロジェクトの代表機関として、研修会等、機関リポジトリの地域への拡大を目指す活動を行います。

●2009～2010電子ブック・電子化文献コレクションの整備について

図書館では、全学教育研究基盤としての電子ジャーナルやデータベースの整備拡充と併せ、各種文献の電子化コレクションや学習用を中心とした電子ブックの充実にも努めています。ここでは昨平成21(2009)年度以降に整備した電子化コレクションを紹介します。

(1) 電子ブック

電子ブックとしては、NetLibraryやGale社・Elsevier社のレファレンスコレクション等を提供していますが、この度下記の分野コレクションが加わりました。

① Springer eBooks

- All Subject Collection: 2005
- Business & Economics: 2005～2008
- Humanities, Social Science and Law: 2005～2008

② NetLibrary

- 基本医学書（洋書）
- 朝倉書店刊行基本図書

(2) 文献全文データベースコレクション

人文社会科学系分野における週及的・網羅的な文献調査に対応したコンテンツとして、下記2点をコレクションに加えました。

① Nineteenth / Twentieth Century House of Commons Parliamentary Papers (19/20世紀英国下院議会文書データベース)

② The Making of the Modern World: The Goldsmiths'-Kress Library of Economic Literature 1450-1850 (ゴールドスミス・クレス両文庫所蔵社会科学文献集成)

上記のほか、主要電子ジャーナルパッケージや学術文献情報データベースについてもバックファイル拡充を実施しています。

●「資料の探し方：広島大学生のための情報探索ガイド（改訂2版）」発行

「広島大学生のための情報探索ガイド」(初版2006年、改訂版2008年発行)を、デザイン・内容を一新し「資料の探し方：広島大学生のための情報探索ガイド（改訂2版）」として2010年4月に発行しました。

新入生には全員配付、各図書館カウンターでも配布中です。どうぞご利用下さい。

